

めざせ東京五輪みなみみのわっ子



南みのわ 議会だより

9月定例議会

南箕輪村議会 〒399-4592 長野県上伊那郡南箕輪村4825-1
Tel. 0265-72-2104 Fax. 0265-73-9799

No. 103

2013.11.1 発行

発行責任者 議長 原 悟 郎
編 集 議会だより編集委員会

URL <http://www.vill.minamiminowa.nagano.jp>
E-mail gikai-d@vill.minamiminowa.nagano.jp

主な内容

- 9月定例会 P 2
- 決算の状況 P 3
- 一般質問 P 4~P11
- 議会活動 P11~P13
- 地域でがんばる姿 P14

議会のホームページをリニューアルしました。
一段と見易くなりましたので、ぜひご覧ください。

7千万円の黒字

9月定例会で
決まりました

とおり可決。陳情2件が提出され、採択2件、意見書の提出2件となりました。

	件名	賛成	反対	議決結果
条例関係	村職員定数条例の一部改正……………定数を10名増やし152名とするもの	9	0	可決
	子ども・子育て審議会条例……………支援施策を調査審議する会の設置	9	0	可決
	鳥獣被害対策実施隊設置条例……………鳥獣による被害を防止するため	9	0	可決
平成24年度決算関係 (別表1)	一般会計歳入歳出決算の認定	9	0	認定
	介護保険特別会計歳入歳出決算の認定	9	0	認定
	国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定	9	0	認定
	後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	9	0	認定
	上水道事業会計決算の認定	9	0	認定
	下水道事業会計決算の認定	9	0	認定
平成25年度補正予算 (別表2)	一般会計補正予算(第5号)	9	0	可決
	一般会計補正予算(第6号)	9	0	可決
	介護保険特別会計補正予算(第1号)	9	0	可決
	国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	9	0	可決
	後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	9	0	可決
その他	水道事業会計補正予算(第3号)	9	0	可決
	長野県上伊那広域水道用水企業団規約の変更について 構成議員の表記変更	9	0	可決
請願・陳情	教育委員会委員の任命について 林百代氏を新しく選任(有賀志津子氏任期満了のため)			全員同意
	国に対し、消費税増税中止の意見書を提出することを求める陳情 (総務経済常任委員会の審査結果は採択)	7	2 (山口) (百瀬)	採択
	●反対討論：山口…国の借金は1千兆円を超え、社会保障費の国の負担は、毎年1兆円ずつ増え続ける。将来にツケをまわさないため消費税で賄うしかない。			
	●賛成討論：丸山…求人倍率や賃金は上がらず、輸入物価上昇で悪いインフレ状況だ。国債金利も上昇せず、景気は回復途上。増税で景気失速を懸念。			
	●反対討論：百瀬…日本の信用を失い将来へのツケをまわす事になる。責任を持った決断が必要。その上で、低所得者への対策や軽減税率の導入が必要だ。	7	2	提出
	●賛成討論：小坂…村内の中小企業経営者は、増税を段階的に上げる考えにも憤っている。村民の大半は増税に反対のはず。			
	→意見書の提出	7	2	提出
森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保の陳情 (総務経済常任委員会の審査結果は採択)	9	0	採択	
→意見書の提出	9	0	提出	
道州制導入に断固反対する意見書の提出	8	1 (百瀬)	提出	
●反対討論：百瀬…少子高齢化が進む日本の新しい形を考える事は大切。地方に権限を持たせるためにも必要。導入ありきでなく検討を始めるための法律。				
●賛成討論：久保村…道州制は必要ない。今の機構の中でも、地方の意見を取り入れながら地方に優しい、無駄を省いた行政をしようと思えばできる。				

平成25年度補正予算

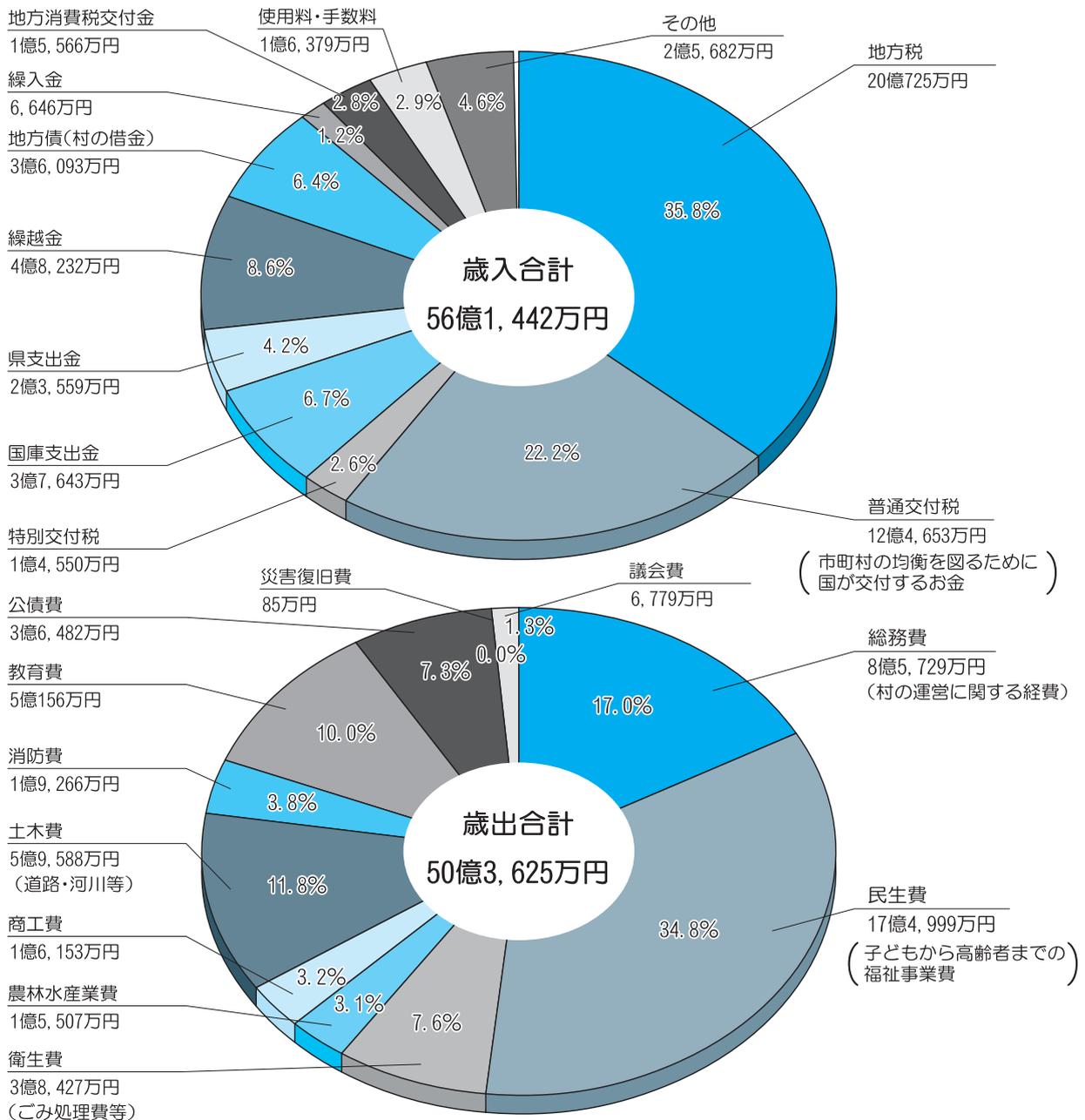
別表2

会計別	補正額	補正後の総額	会計別	補正額	補正後の総額
一般会計(第5号)	2億5627万円	56億4325万円	後期高齢者医療特別会計(第1号)	250万円	1億386万円
介護保険特別会計(第1号)	2213万円	8億565万円	水道事業会計(第2号)		
国民健康保険特別会計(第1号)	8316万円	12億9236万円	収益的支出	△2200万円	8246万円

平成24年度一般会計は5億

9月定例会は9月2日～13日までの日程で開かれました。17議案はすべて原案の

平成24年度一般会計決算の概要



平成24年度各会計決算

別表1

会計別	歳入	歳出	会計別	歳入	歳出
一般会計	56億1442万円	50億3625万円	上水道事業会計	収益的 2億4026万円	2億2481万円
介護保険特別会計	7億5118万円	7億2858万円	上水道事業会計	資本的 671万円	2435万円
国民健康保険特別会計	12億4719万円	12億2583万円	下水道事業会計	収益的 4億9184万円	5億2752万円
後期高齢者医療特別会計	1億179万円	9928万円	下水道事業会計	資本的 1億7140万円	4億186万円

学校職員不祥事の再発防止策は



加藤 泰久

再発防止策を策定した（教育委員長）



明るく楽しい学校

問 学校職員の不祥事

が発覚し、新聞、テレビ等で報じられた。村民はこの報道のみで正確な内容を知ることもなく疑念を残した。事件が終結した中で、村民に正確な内容を知らせ、疑念を払拭すべきであり、またこの事件の原因を追及し、再発防止に役立たせるべきだ。

一生懸命に教育に携わっている教員や、学校、教育委員会、村の信頼回復のために、事件の経過と内容を問う。

教育委員長

経過は7月の初めに取引業者から未納金があると知らされた。7月3日から校内調査が始まり、13日に不明金の総額が判明。14日に本人から事情聴取し、

不明金の額を認めた。17日に議会全員協議会に報告し、南部小学校保護者会に説明し18日に記者会見を行った。8月29日県教委は女性職員を懲戒免職とした。

内容については、23年5月から25年6月までの間に、現金で受け取った給食費や職員の慶弔費等163万5915円を横領した。女性職員の父親が損害額を返済したので刑事告訴はしないことにした。

問 この事件をふまえての再発防止策は。

教育委員長

『学校徴収金取扱等再発防止策』を策定した。会計事務は、▽村費職員給食費の現金徴収の廃止、▽現金納入世帯への領収証発行、▽通帳残高の定期確認。監査体制は、▽監査書類の提示一覧表の作成、▽監査の2回体制、▽外部監査員の登用を決めた。

問

ふるさと大使の活躍の場と機会を増しては。 **村長** 当面10月の上伊那地域議員研修会の講師として井口氏にお願いをした。

また来年2月の『南箕輪の日』の記念式典で4人の大使をパネリストに招き、『ふるさとの魅力再発見』と題したシンポジウムを開く予定。大変忙しい大使の皆さんが末永くお付き合いをお願いしたい。

問

大芝湖の湖底に泥が堆積しているので何らかの対策を望む。また流入する水量が不十分なので水の確保を。

村長

以前にも東側の湖の清掃をし、大変な費用がかかった。今後の検討課題としたい。水の確保については大泉川から取水しているので、他地区とのからみもあり多く取水することは難しい。

保育園給食費は管内他市町村に比べなぜ高い



丸山 豊

地元産食材を使用し、手作り料理を主にしている（村長）



子どもたちのうれしい給食時間

問 保育園の給食費が他市町村に比べ2割〜3割ほど高いがなぜか。

村長 3歳以上児で1食265円。食の安全を第一に、品質の良い地域食材を最優先し、栄養バランスを勘案した手作り料理としている。

問 冷凍食品など食材全般の安全性についての取り組みと、目安・原油

村長 値上がりの影響はある。給食センターでは冷凍加工食品の使用を極力避けるが、使用する場合は学校栄養士と給食会が共同開発した食材を使う。野菜も安全性の高い地元産を使用。食材への値上げは現時点で影響はないが、消費税引上げの場合は値上げを視野に検討。

問 学校では食育担当者には担任か栄養士か。

教育委員長 栄養教諭がいなかったため担任と栄養士双方で担当し、学活の時間などで栄養・食育の指導をする。

問 学校給食の一体的管理と食に関する指導は栄養教諭の職務である。県下で59人が配置されているが、本村に配置されているか。

教育長 法的に配置を位置付けるものではない。配置できれば良いと思うが数の限りもある。職員異動時に希望があれば要望していく。

問 給食規模（約1200食）を考慮すれば栄養教諭の配置が必要ではないか。

教育長 法的に配置を位置付けるものではない。配置できれば良いと思うが数の限りもある。職員異動時に希望があれば要望していく。

問 赤字の自治体数は。

村長 医療保険制度の最後の砦。なんと守らなければならないが、財政的に厳しい状況。

問 管内市町村での赤字は4、赤字4。本村は補填をしての赤字決算である。

問 事業主体を市町村から都道府県への広域化については賛成か。

村長 現行の国保事業を考えれば広域化の運営は望ましいと考える。

問 保険者を市町村から県に移管し、県の平均額に一本化すると仮定した場合、一人当たりの保険料は最新の資料で村の試算の見込みはどうか。

村長 平成23年度国保税県平均は一人当たり保険料7万1412円、本村が7万6437円で5千円ほど高い。だが、今の段階では保険者の定義が難しく、はっきりするのがH26年12月末であり今後注視していきたい。

問 現行の国民健康保険事業についての見解と、管内市町村における黒字

国民健康保険について

現行の国民健康保険事業についての見解と、管内市町村における黒字

73歳以上招待の高齢者 交流事業は継続するのか



唐澤 由江

今年で24回目となり大多数が継続を望んでいる(村長)

問 高齢者交流事業は約1800人中2割の350人の参加だが、存続していくのか。

村長 交通安全と特殊詐欺の講演も行いその意義はある。行政評価では要検討であったが、あまり金のかかるものではない。健康寿命を延ばすためにいろいろなものに参加することが大切。内容について企画要望があれば考える。

問 南部小の給食費横領事件で、見つかったも返金すれば罪を問われないのは、教育上よくないのでは。

教育委員長 懲戒免職で社会的にも制裁を受

けたと考える。

問 村の補助制度は農業者に手厚く、商工業者に薄いのではないか。

村長 民営の直売所への補助はできないか。

村長 今では農業より商工業の補助が圧倒的に多いが、あてはまる制度

があれば活用されたい。

問 直売所は地域にとってありがたいが、県補助を受けている。

問 中部保育園にバラが寄付され、管理は個人奉仕で行われている。バラの管理は難しいので委託契約しては。また他

園や小中学校にもバラを植えては。

園や小中学校にもバラを植えては。

村長 材料費は村が負担しているが、今後は職員等で管理したい。バラだけだけでなく総合計画で考えたい。

問 山村うたごえの輪が11年目を迎える。この会は『ぼっかぼかの家』の開所以来ずっと活動している。表彰も励みになるので、村で何らかの評価をしてほしい。

教育長 文化団体の一つと理解している。表彰については教育委員会の規定にはない。

問 災害発生時に避難所でのペットの扱いを考えたのはなぜか。

村長 4地区が作成済

問 防災マップのない自主防災会へ支援しては。

村長 4地区が作成済



『ぼっかぼかの家』での山村うたごえの輪の活動

村長 人命が第一。自主防災会で検討してもらったが、難しく結論が出なかった。今後研究していく。

問 AED置き場に鍵がかかっているが非常時はどうするのか。各区への普及を。

村長 盗難防止のために施錠している。区や消防団に呼びかけ公民館に設置できればと思う。

問 防災マップのない自主防災会へ支援しては。

村長 4地区が作成済

問 給食センターの生ごみ処理機が使用不可のままだがその対策は。

教育次長 平成23年6月に使用開始したが、翌年から処理できず休止し、以降は運搬を業者に委託し、木くずと混ぜて堆肥に利用している。

問 各課バラバラでなく有効な処理機の導入を。

教育長 住民福祉課の指導により検討したい。

教育長 住民福祉課の指導により検討したい。

歩道の草刈などは地域で維持管理をする施策が必要



山崎 文直

地域に協力をお願いし、行政も支援する（村長）

問 村内主要道路で歩道の設置区間が途切れている箇所がある。宅地化がされる前に計画を示し、協力を要請することが必要では。

村長 理想だが現状は



維持管理が必要な歩道

費用、用地などの問題でなかなか進まない。国・県道については村からの要望に対して実施する。吹上線入口の工事が本格化し、国道361号の宅地城内の歩道設置を毎年要望している。その他の国・県道についても毎年現地調査し伊那建設事務所に要望している。過去に用地確保ができず断念した事例もある。

問 村道の歩道設置状況と計画は。

村長 村道の歩道は村全体で約11kmが主要村道、広域農道に設置済みだが全線にはない。現在計画は広域農道（大萱く枝専校）に県営事業により27年完成予定のみ。中込線も必要性があり、26年度から道路部分に力を入れていく。通学道路は幅員が狭いのでグリーンベルトを延ばしていく。

問 雑草が伸びて見苦しく、通行の邪魔にもなる。地域で維持管理をする施策が必要ではないか。

村長 建設事務所の範囲もなかなか手が入らないのが実態。村道も緊急以外はシルバー人材に委託するが、回数が多くなるので十分ではない。基本的には地元の皆さんに協力をお願いしたい。共に頼る面がある。県で実施しているアダプト制度を村でも検討し、村内全域に広がるように行政支援したい。

問 大芝高原の『道の駅』構想のなかに、道路状況や観光情報を提供するビジターセンターを入口付近に設置しては。

村長 将来的には必要

問 ふるさと大使が誕生して1年経過したが、増員や活動の幅を広げる計画はあるか。

村長 できれば増やしたいが人選も難しい。友好都市や防災協定を組むなど考えたい。

問 夏になると歩道に

村長 耕作者の高齢化により「まっくんファーム」が耕作管理する面積が増す。緑や景観を守る



コンバインはフル稼働



百瀬輝和

地区要望への対応充実を

今後は予算を増やしたい（村長）



普通車の通れない踏切

問 避難経路の危険箇所を地区要望しても、道路・水路は4箇所しか要望できず困る。普通車の通れない踏切の問題もある。

村長 身近な危険箇所は支えあいマップに地域で掲載していくことが大切。財政フレームを見て来年度から実施箇所を増

やしていきたい。JRの踏切問題の対応はかなり厳しいのが現状である。

問 公共建物の非構造部材耐震化計画は進んでいるか。

村長 役場庁舎、村民センター、学校などの調査費は25年度計上している。調査結果を踏まえて26年度から予算化して実

施していく。

問 都市計画道路の今後の実施計画は。

村長 都市計画道の計画は、昭和53年1月に長野県で計画された。計画から35年経過している。村内では35・7kmのうち改良済みが5・2kmで、整備率は14・6%である。県からも見直しの指導があり、村の3カ年実施計画の中で見直しに着手していく。

問 賃貸アパートの大家・管理者の報告・協議の義務付けの条例を。

村長 以前にも検討したが、強制力がないものになってしまった。現在村でも空き家などの問題もあり、それも含めて検討していきたい。

問 学校での熱中対策は。

教育委員長 水筒を持ってきている。適時自由に水分補給できるようにしている。職員が指導

して自己管理できる力を育てている。

問 特別教室に扇風機設置の計画は。

教育委員長 今後検討する。

問 ミスト扇風機の導入を考えてはどうか。

教育長 ようすをみて考えていく。

問 ゴミ袋チケットの回収事業の内容周知を。

村長 ゴミの減量化の取り組みで学校が行っている。内容がもう少し分かるように取り組んでいきたい。

※その他の質問

・被災者支援システムの運用等について。

・消火栓、公園の設置について。

・防災訓練の課題は。



耐震化が必要な非構造部材(天井、バスケットゴール、窓ガラス)

今後は『介助中』『支援中』の普及を

さまざまな表現で支援していくべき（村長）



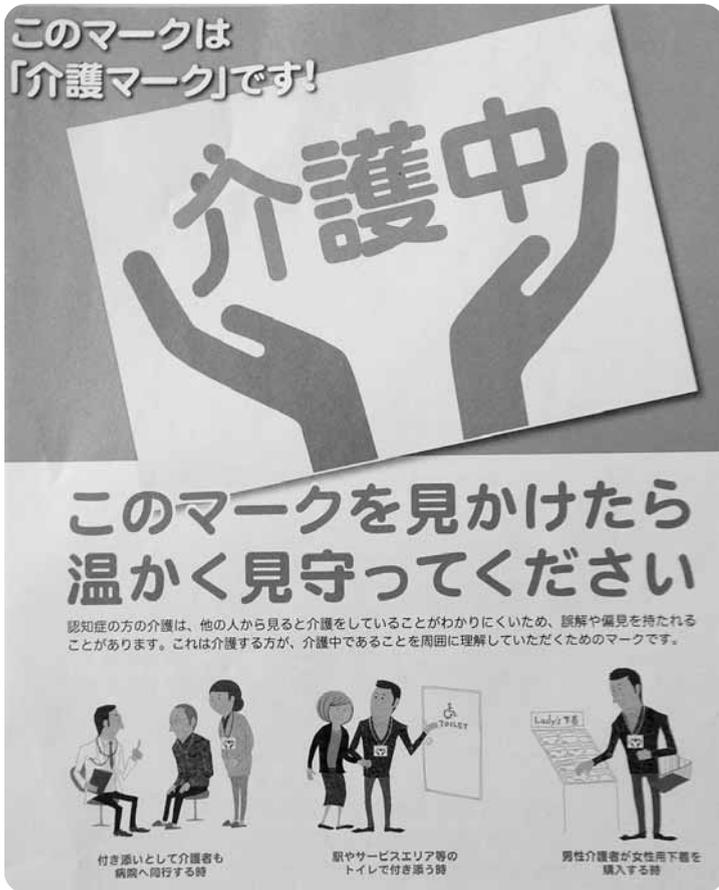
小坂 泰夫

問 『介護中カード』

は主に認知症の方の介護者を周囲にわかってもらうためのもの。若年の病人や障がい者のために『介助中』『支援中』も普及して欲しい。

村長 全国的にも村役場窓口でも介護マークの配布を行っている。若い人や障がい者には『介護』の言葉に抵抗感を持つ人もいるだろう。さまざまな表記があってよいと思う。

実際に相談を受けた例だが、子どもの障がいが見えにくいから「しつげがなくていい」と嫌目で見られ、つらい思いを



した親御さんは『障がいを持っていきます。ご理解を』というワッペンを自分で製作した。共通の悩みを持つ方に普及してほ

しいと要望があり、村窓口でも協力するつもりだ。

問 現代の学校には高機能障害など、知能は高

くてもコミュニケーション

ンに障がいを持つ子どもが普通クラスにも存在しているのでは。生徒本人に合った支援を保護者も選んで欲しい。現場の実

情はどうか。

教育長

生徒の状況はそれぞれで本当に難しい。落ち着きのない子どもがいてクラスがまとまりにくいことがあっても、その対応は簡単ではない。就学前の相談において特別支援を勧めても、保護者や祖父父母などの理解を得られないことも多い。

問 村の出身者には特別支援学校や障がい者雇用に詳しい方もいる。新設される子ども子育て審議会に、障がい者教育に精通した経験者をぜひ加えては。

村長 障がいを持つ生徒の保護者や療育に関わる資格保持者など専門家にも関わってもらって、子育て全般がより良い方向に進むことを目指していく。

自殺対策ユニット

問 最近でも有名人の自殺もあった。本人の悩

みはもちろん、家族もその対処が難しく、結果不幸な結末に至ることも少なくない。演劇を通じて心に届く啓発活動も行ってみたいかがかか。

村長 議員から以前も指摘があり検討した経過もあるが、演劇は費用がかかり、実際に開催しても見に来てくれる人が少ないのが実情。国の交付金等も活用して今後でも啓発を進める。

退職自衛官の雇用を

問 上伊那郡下でも自衛官を目指す男女学生がいる。制度上若い退職自衛官も多く、厳しい訓練経験や多くの資格を持つ自衛官の雇用を村内企業にもあつせんしては。

村長 自衛官の募集は村報などで協力している。村で退職自衛官の雇用は検討できても、民間会社にあつせんはできない。



久保村 義輝

TPP交渉の現状と問題点は

国民に情報伝達がなく状況が分からない (村長)

問 政府は交渉に参加したが情報がまったく知らされない。重要品目は守るといふ約束はどうか

村長 全国町村会はTPP交渉のなかなど、主権を守る立場からどう考えるか。

問 村は地域の産業振興のために、各種の支援

問 村では独自の支援策も取り入れ介護者支援を強化してきたところでもあり、制度の根幹部分を崩さないように取り組んだ。

TPPによる長野県への影響

～長野県農林水産業と関連産業に及ぼす影響の推定結果～

全産業の生産減少額
約1,884億円

●農林水産業の生産額減少の影響の波及による県内全産業の生産減少額は約1,884億円に上る。<表①参照>

長野県全産業における雇用の減少
約4万5千人

(うち農林水産業では約3万9千人の減少)

●雇用の面では、農林水産業で約3万9千人の雇用が減少するとともに、全産業でも約4万5千人の雇用が減少する可能性がある。
※平成22年長野県就業者数は、1,091,038人であり、試算による就業者数の減少率は全産業で▲4.1%となり、第1次産業就業者数減少率は▲37.7%にもなる。

■政府は、3月にTPPの国内農林水産業への影響について、約3兆円の生産減少をもたらすと試算を公表しましたが、地域における影響試算については算出されませんでした。
■JA長野県グループでは、TPPにより長野県に及ぼす影響を明らかにし、県民議論を深めるため、独自に長野県に及ぼす影響試算の算出・取りまとめを東京大学大学院の鈴木宣弘教授に依頼しました。
■その結果概要については、次のとおりです。

TPPの影響試算を示す文書

に反対しており、村もその一員として反対だ。

交渉ごとではあるが、情報開示されず状況が分からないのは問題だ。農業面では主要5品目の関税は守るべきで、そう願っている。

問 東大の鈴木教授による農林水産業への影響試算がされている。

試算では全産業の生産1884億円減少、雇用4万5千人減少、県民総生産1032億円減少、多面的機能390億円喪失となっているが。

村長 すべての関税が撤廃された場合の試算で、最新の数字だと思う。

策を進めてきた。村の取り組みを無にしないために声を上げるべきだ。

村長 政府は日本農業を守る政策をきちんと明示すべきだ。他産業への影響を考えると情報開示し国民的な議論が必要だ。各団体の運動も活発にしてもらい、村民生活を守っていききたい。

介護保険の制度変更 協議をどう考えるのか

問 要支援者の部分を介護保険から外して、市町村に任せるといふ議論が国でされているが、どのように考えるか。

村長 一部を市町村事業に移管しボランティアでの対応をといるが、サービスの低下も考えられ、乱暴な改正と考えている。

むべきではないか。

村長 自治体間での格差が生じやすいので、国が財源を確保すべきだ。村としては現在の介護水準を維持していきたい。私も県の社会環境部会の一員として、国保と介護制度に絞り国・県へ要望することを決めた。

防災訓練の成果は

問 今年の避難者確認は、本人が記入することで短時間で集約できたのではないか。新たな取り組みなどの成果は。

村長 まとめはこれからだ。初めて一泊の避難所開設訓練を行った。電気・水道が使えない想定で照明の必要性を強く感じ、発電機の音がうるさいことを実感した。

避難者確認は各自がカードに記入するように変更し、職員は施設点検や救援所開設などに取り組んだ。

一般質問のその後

平成25年6月定例会の一般質問のその後の経過
(村から報告のあったもの)。

質問者・質問内容	担当・対応
都志 今朝一 ●南海トラフ地震最終報告では、家庭用食糧の備蓄は1週間分以上に拡大されているが、このような報告を踏まえ避難訓練を行う必要がある。	→総務課：村民への周知については、8月下旬の伊那ケーブルTV「素顔がいいね・みなみみのわ」で放送を予定し、また村報9月号にも掲載する。
丸山 豊 ●中央病院の機能評価結果は、理事会や課長会に報告されているか。	→住民福祉課：中病に申し入れを行った。(25年7月17日)
唐澤 由江 百瀬 輝和 ●風しんワクチン接種の補助を	→住民福祉課：他の団体と25年6月12日に協議した。飯島町以外は今年度の補助はしない。広域的な課題として県が補助するよう県議会委員会に要望していく。なお、村は26年度当初に補助できるよう検討する。
唐澤 由江 ●運転免許証返納者にまっくんバスの定期券の補助を	→住民福祉課：26年4月1日から免許証返納者の希望者に回数券を交付する事業について検討していく。
山崎 文直 ●職員定数の見直しと実施を早急に。 ●道の駅の設置について	→総務課：庁内、保育園等の職員定数の見直しについて検討している。9月議会に提案する。
	→産業課：現在の味工房駐車場が広域農道から250～380mほど離れているが、適切な案内をすれば良さそう。ただし、周辺道路の情報を提供する施設が必要となる。現状では条件を満たしているとは言えないが、施設を整えば登録できる可能性はある。宿泊施設への影響も考慮しなければならず、引き続き検討する。
●村郷土館整備計画の展望は。	→教育委員会：村郷土館の移転場所及び規模について、今年度中に方向付けができるよう検討を進める。
小坂 泰夫 ●大芝の湯で3,000円の回数券は発売できないか。	→産業課：開発公社理事会で検討の結果今までどおり11枚綴り5,000円で販売していくこととされた。販売状況から判断すると、5,000円の回数券は必ずしも購入しにくいとはいえない。

道州制、TPP
について研修

7月25日、松本市にて長野県町村議員研修会が開かれた。

『道州制構想についての私見』と題して、東京都市研究所理事長の西尾勝氏の講演を聴いた。西尾氏は、純然たる国の事務まで道州に委譲される危惧、平成の市町村合併の終息直後に改めて市町村合併は必要なのか、道州の区割りの難しさなどを挙げ、道州制には慎重論を唱えていた。

次に『TPPの影響と課題』として、元通産省企画官の進藤勇治氏の講



演。広くは自由貿易を推進してきた国際動向からTPPのメリット・デメリット、つまるところは米国の動向が最大の鍵だという。

どちらのテーマも、一つの自治体だけでどうにかできるものではないが、その影響は多大であろう。今後も注視していきたい。

浜岡原子力発電所を視察

この議会では初めて、原子力発電所を視察しようとして、7月31日、静岡県の中部電力浜岡原子力発電所を訪れた。

防波壁は海拔22mの高さがある

**南箕輪カントリー
エレベーター視察**

8月19日、JA上伊那の南箕輪カントリーエレベーターを視察した。

この施設はJA上伊那が老朽化した管内の米穀施設の再編の一環として、国・県の支援を受けて建設されたもの。県内でも先駆的な設備



そびえ立つ“カントリーエレベーター”

や運用について学ぼうと企画した。サイロ内を見たり、28メートルの最上部まで上がり、機能的に造られた設備であった。これまでではライスセンターと呼ばれ、処理と一時保管の用途だったが、400トンのサイロ5基を増設したことで長期貯蔵が可能になり、出荷の調整により販売にも有利になる。この秋から南箕

輪村と箕輪町などの約450haのコシヒカリを受け入れる。

その他、4トンの投入可能な大型の荷受ホッパー、最新の光選別機なども導入され、作業効率も向上する。県内では初めての鉄製で清潔に造られたサイロに感心した。

委員からは、1基分丸ごと販売契約するなど地域ブランド販売の可能性、有機米だけをまとめて保管することが可能か、などの質問があった。この視察を機に、今後の農業振興につなげたい。

**保育現場を
視察**

8月8日に3つの保育園を視察。

中部保育園は26台の駐車場を整備、生ごみ1日8キロを処理する処理機の導入。また未満児室のエアコンが設置され、快適な環境になった。防災訓練や不審者への対応の



園児といっしょに“いただきます”

**完成が待たれる
南原保育園**

南原保育園は現リズム室を保育室2室として利用中で、11月末までに改修予定である。

増築部分には保育室とリズム室を設け、10月末に完成予定。

工事費は1億7000万円、4000万円ほど補助金で賄い、増え続ける園児数への対応はかかっている。

区長会と懇談

10月10日、各区の区長の皆さんとの意見交換会を開催した。

人口増加への対応やゴミ問題、またある区では、人口増加は見込めず、高齢化が進んでしまっているなどの課題が出された。議会に対しては、「長期的また広域的視点で行政への提言を行ってほしい」との意見が寄せられた。

新しい救命救急センターに期待

伊那中央病院の救命救急センター・研修センターが完成した。10月1日に診療を始めるので、議会でも見学。

1階を救命救急センターとして整備。救急病室10床、診療室4室、レントゲン室やCT室などを備える救急外来と、外科や

外来肛門科、乳線内分泌外科、呼吸器外科などの一般外来を整備した。

2階は研修センターとし、26年4月の稼働開始を予定するメデイカルシミュレーションセンターには内視鏡手術や血管内カテーテル治療、麻酔など約30種類のシミュレーターを導入。講議室や図書館も整備し、同病院をはじめ地域の医療関係者の研修拠点として、最新



救命救急センターの内部

医療技術の習得や向上を目指す。地域医療を担う中核病院としての機能が一層高まった。

奥地林視察

10月7日、旧国道361号(権兵衛街道)を含む奥地林を視察した。

9月16日に通過した台風18号の影響で、土砂が道路にまで押し出されている状況も確認した。



土砂流出現場



新しい辰野町立病院

伊北議員研修

10月2日、南箕輪村・辰野町・箕輪町・伊那市の議員合同研修会が、辰野町で開催された。

辰野町立病院を視察し、伊那中央病院との役割分担をしながら地域医療を担っている現場を肌で感じてきた。

編集後記

今年の気候は、ゲリラ豪雨や、ところかまわず現われた竜巻に各地で見舞われ、自然が牙をむいたように思われた。

台風一過の9月19日の夜は、台風が磨いていったような空に中秋の名月が静かに光り、ウサギが餅をついているような美しい月を目にすることができた。

今年も豊作で自然に感謝するところです。

副編集委員長 加藤泰久



女性消防団員全国大会に出場！

— みごと、優良賞を受賞 —



後列：左から 佐藤佳代さん、有賀ひとみさん、塚田真生さん、加藤有利沙さん
前列：左から 北原瑞季さん、征矢仁美さん、征矢和代さん

10月17日に村消防団女性団員が、横浜市で開催された『第21回全国女性消防操法大会』に、長野県を代表して出場されました。以前には村のポンプ操法大会で優勝された皆さんですが、扱う器具も違うため早朝練習や自主練習に励みながら訓練を重ねていました。

結果、47チーム中10位という成績を残し、優良賞を受賞しました。

私たちの安心・安全を担っていただいている消防団にエールを！



人波作戦



9月24日、交通安全人波作戦に参加しました。
交通事故ゼロをめざします。

コンバイン入魂式



まっくんファームのコンバインが2台更新されました。
(8月29日入魂式)